

楽しんで、考える修学旅行

京都・奈良に旅行することが当たり前だった修学旅行を、今年は県内へ変更としました。「一緒に過ごす」という日常が非日常になったコロナ禍で、子どもたちが学校を離れて同じ時間や空間を共有できる修学旅行は貴重な機会です。特に、昨年の宿泊研修を体験できていない6年生にとって家庭を離れて夜を過ごす体験は必須です。

『修学』という教育的目的を達しつつ、子どもたちの心理的欲求に応えるために、山県から離れることの価値から考え、白川郷・高山市を目的地にしました。これは移動時間を減らし、活動時間を増やす利点に加えて、学びに必然性をもたせる目的があります。子どもたちは、社会科や生活科他の学習を通して山県の魅力を理解していますが、まだまだ断片的です。今回、山県市役所のまちづくり課の職員さんにお話をいただき、県が誇る観光地である白川郷と高山市から、山県の魅力を発信するヒントを学んできてほしいというミッション（使命）を授かりました。観光めぐりだけではない行程から、子どもの好奇心や思考力を高められるように、必然的な活動が生まれました。



そこで旅行のめあてを『自分で考えて行動すること』としました。引率の教師は極力教えることを控えて、児童自身が答えを見つけられることに心を配りました。それでも子どもたちは聞いてきます。

「先生、次、何するの?」「どこに行けばいい?」「これは何?」

この時がチャンスです。「あなたはどう思う?」「どうすれば答えが見つかる?」と逆に問いを返し、答えを見つけるように促しました。次第に子どもからそれらの声は減り、自ら考えて動く姿が増えていきました。子どもたちは、体験活動を通して合掌集落の工夫を知ったり、村役場の広報担当者から広報の仕方を聞いたりしながら、ミッションをクリアしました。

たった2日間でしたが、学級・学年の仲間と一緒に凝縮された濃密な時間を過ごしたことで、子どもたちは、学校では味わえない体験と学びを味わいました。一人一人が先を考えて行動し、誰も遅れることなく計画をやり遂げた高山班別行動では、一回り成長した6年生の姿が見られました。これからの学校生活でも、『自分で考えて行動すること』を、発揮してくれると期待しています。

さわやかな朝・さわやかなあいさつ

毎朝、児童会によるあいさつ運動が行われています。感染症予防のため、タブレットを玄関に置き、テレビ会議を使って画面越しにあいさつを交わします。入り口では手作りのプラカードを掲げて、シールド越しにお辞儀をして働きかけています。感染症予防を踏まえて、児童会が工夫した活動です。できないからあきらめるのではなく、できることを考えました。おかげで、さわやかな朝を、さわやかなあいさつで始められています。

安心安全な登下校を自らつくる

今年6月に、千葉県八街市で下校中の児童が巻き込まれる交通事故が発生しました。全国で登下校時、事故に巻き込まれた児童は過去5年間で908人を数えます。これは死者・重傷者の統計で軽いケガやケガがなかった事故となるとさらに多くの児童が当事者となります。本校区でもPTA旗当番の皆さんや見守り隊に加え、山県警察署の警ら隊にも定期的にパトロールをしていただき、事故防止に取り組んでいます。しかし、大切なのは子ども自身が安全な登下校に対する意識をもつことです。学校でも、繰り返し指導をしているところです。

その中で、うれしいニュースがありました。登下校時のお手本となる姿として栗洞二班が、山県地区交通安全協会から表彰されたのです。一列でマナーよく歩くことや、分団旗をわかりやすく示すこと、停車していただいた車へお辞儀をすることなどが評価されました。どの分団においても安全で安心できる姿が広がるように、登校時にはご家庭でお子様にお声を掛けてください。

